

能代高校創立100周年記念OB座談会 上

樽子山、高埜に刻んだ「青春譜」

今年で創立100周年を迎えた能代高校。同校同窓会の呼び掛けでOB座談会を母校を会場に開いた。出席者は大谷直子さん（第37期）、西村省一さん（45期）、高松直志さん（49期）、畠山親浩さん（50期）、大塚孝樹さん（57期）、佐々木亜希子さん（61期）の6人。硬式野球部の2年連続甲子園出場の際役者でもあった高松さんの話題から入り、それぞれ高校時代の思い出、これからの高校に望むことなどを語ってもらった。司会は大塚孝樹さん（48期）、オブザーバーが同窓会会長の山本達行さん（39期）。

印象深い甲子園の強腕

山本さん 能代高創立100周年を記念したOB座談会を企画したところ、ご出席いただきありがとうございます。社会でご活躍されている皆さんには高校時代のそれぞれの思い出を語っていただくとともに、これからの能代高がどんな高校になっていけばいいかということ、忌憚なく話していただければと思います。よろしくお願いします。

泉さん それでは早速座談会のほうに入ります。座談会の企画段階では、2年連続で夏の甲子園大会に出場した高松さんからもお話を聞きたいという声が全会一致で上がったことで、高松さんにおいでいただきました。高校3年間の思い出を皆さんに語っていただきますが、まずは話題提供ということで、高松さんはどうしてこんなに有名なかということを含め野球部の後輩である畠山さんからお話ししていただきます。

畠山さん まず、私が入学したのは現在の校舎で、樽子山の校舎は知りません。今では周りにこんなにお店があるが、高校時代はなにもなく、吹きさらしの中を東能代駅から歩いてきた。

その当時、県内の高校野球で一番強かったのは秋田商。すごいメンバーがそろっていて、後にプロ野球のロッテに行った武藤（一邦）選手もいた。私も秋田商に行くつもりでしたが、秋田商の監督さんが不慮の事故で亡くなられ不安に思っていたところに、能代高の太田（久）監督と金谷（晴隆）部長が自宅に見え、うちには高松がいるからお前も来いと誘われた。3年間での一番の思い出は、2年生の時の甲子園予選決勝の本荘戦、甲子園で箕島と対戦できたこと。

高松先輩との思い出では、私がレギュラーになって、レギュラーバッティングでのごこと。先輩は、星飛雄馬と言われたように足をぐんと上げ、グローブを前に突き出し目隠しするように投げる。2年生の時が一番球が速かったが、コントロールはあまり良くなく、バッテリーボックスでは本当に怖かった。2回当てられた。3年生の時にはコントロールも良くなったが。

第59回、第60回大会と夏の甲子園には、高松先輩のおかげで2度連れて行ってもらった。今でもたまに一杯飲みながら当時の試合の録画を見るが、箕島戦の失点は初回の1発だけで、あれはセンターがバンザイしただけ。1時間30分余りの本当に良い試合だった。

高校野球で一番辛かったのは、水が飲めないこと。水を飲むな、プールに入るなどという時代だった。夏の合宿で水分を取れないのは本当に辛く、グラウンドのセンターの奥に穴を掘って、そこに水のボトルを入れて飲んだ。

泉さん 皆さん驚愕の表情ですが、次は西村さんお願いします。

西村さん 私は昭和47年の入学です。軟式野球部でした。でも本当は硬式野球部に入った。ただ、背が小さく線も細かったので、硬式はバットが重く振れず、ボールも重かった。すぐに退部して、軟式に入学した。おかげさまで全国大会と団体に出場でき、結果的に良かったのかなと思っている。

大学時代、高松選手が出場した甲子園の試合をテレビで見た。畠山さんはコントロールが悪かったと言ったが、箕島打線を相手に外角低めに決め、カーブでカウントを取っていた。試合後、NHKのテレビ解説者が高松投手のような才能ある選手をもっと見ていたかったと話していた。大学の同級生に「高校の後輩だよ」と自慢した。この時ほど誇りに感じたことはなかった。

泉さん 大塚さんは、中学の後輩ですね。

大塚さん 金岡小、山本中と高松さんの後輩です。小学校の時、確か昼頃の試合でしたか、学校でテレビで見た記憶がある。私たちがとってヒーローだった。

泉さん 高松さんについて私が聞いたのは、100メートル走が11秒台と、鋼のような身体をお持ちで、しかも中学時代から金光寺の坂道を毎日タッシューしていた努力家でもあったそうです。それでは高松さんに語ってもらいます。

高松さん 私も畠山君と同じく、秋田商からスカウトされ、ほぼ秋田商に行こうと思っていた。そしたら、中田建設初代社長の中田初雄さん（元県議会議員）が自宅に来て、ぜひ能代高に来いという話をされた。入るきっかけはそれです。

入学した時は、練習グラウンドが樽子山で、自転車で練習に通った。高埜にグラウンドができるのは私が2年生か3年生の時です。

2年連続で甲子園に出場できた野球生活は、私の人生の中で大きなものになり、後に社会人になってからも大きな助けになった。だが先ほど、泉さんが金岡の坂をタッシューしていたという話をしていたが、そういうことは一切ありません。練習はあまり好きではなかった（一同・笑）。どちらかというと手を抜いて、楽に勝ちたいという思いがあり、さぼりながらやっていた。そんな私のわがままな練習を太田監督に認めていただき、指導が良かったから甲子園に行けたと思っています。

私が2年生の時の一つ上には素晴らしい先輩たちがいた。能代山の中学野球で名の通った選手たちが集まっていた。そういう人たちの打力があって、2年生の時に甲子園に行けた。

甲子園予選の奥羽大会決勝の相手は秋田商。0-1で負けていた7回、太田監督の送りバントのサインを見逃して振った当たりがホームランになり、2-1で勝った。当時の秋田商の投手は、現在建設会社社長の横山さんで、今でも一緒に飲むたびに、あの一球が俺の人生を変えたと言われる。

3年生の時は、3年生のレギュラーが5人で、2年の畠山君や梁瀬（隆洋）君らが一生懸命自分の役割を果たしてくれた。甲子園予選の決勝は、後に日本ハムに行つて日本シリーズ優勝投手になる工藤幹夫がいた本荘。3-0で勝っていたが、終盤ファーストのきれいなトンネルで2点を返され、ぎりぎり勝つことができた。

私は、授業に出ないで、あちこち遊んでいたものだから、出席日数が足りない中で卒業させてもらった。金谷先生、太田監督にはすごく大きな恩を感じている。社会人になってからも、東京勤務の



大谷 直子さん(76)
昭和42年卒、都亭代表取締役



高松 直志さん(65)
昭和54年卒、東光コンピュータ・サービス常務取締役



畠山 親浩さん(64)
昭和55年卒、大森グループ理事社長特命



西村 省一さん(68)
昭和50年卒、元祖榎山納豆代表取締役



大塚 孝樹さん(57)
昭和62年卒、県教育庁北教育事務所山本出張所長



佐々木 亜希子さん(52)
平成3年卒、NPO法人白神ねっと監事、映画プロデューサー